DJ-PHM10 クイック設定

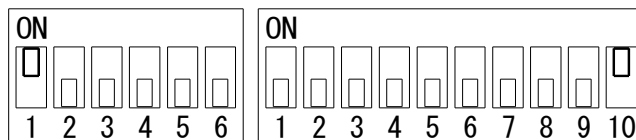
本機は表示部が無いうえ、スイッチを使わず設定ができるエアクローン機能を備えているので、無線機の設定が原因で通話ができなくなったり、使い勝手が悪くなったりしたらまず２台の無線機が好みの状態で通話できるよう設定して、その設定をグループ皆の無線機にエアクローンでコピーするのが一番簡単な方法です。以下、この方法をステップバイステップでご説明します。

※マスターにする２台に全て同じ操作をします。

初期化：PTT（送信）キー、アップキー、ダウンキーを同時に押しながら電源を入れ、ランプが白く点灯したらキーを放す。「初期化しました。」と音声ガイドが鳴る。エアクローン設定のままスイッチ操作をしても無効で「スイッチ操作はできません」旨の音声ガイドで警告される。

［ゴムキャップを外す］
ヘルメットに取り付けるためのクリップ部分を外す。キャップを開ける前の「隙間が無く、正しく閉まった状態」を覚えておき、先端が丸い、書類を止めるゼムクリップのようなものを穴の開いているところに差し込んで持ち上げると簡単に開く。閉じるときは低い方をラベルが貼ってある方に、高い方をスピーカー側になるようにして、一番端をぐっとスイッチ穴に押し込んだあとで、指で押しながら横方向にスライドさせるようにはめ込み、最後に浮いた部分をゼムクリップや指で押しこんで、隙間を無くす。隙間があるとキャップが外れて紛失したり、汗や雨など水分が浸入したりして故障の原因となるので要注意。

［設定スイッチ］
マイク・イヤホン端子が下にくるようにしてゴムキャップを外すと、下記の絵のように左に６極、右に１０極のスイッチが見える。　「ON にする」とはスイッチの左端に小さなＯＮの刻印があるように上側に切り替えることを、「OFF(オフ)にする」、とは下側にすることを指す。スイッチの切り替えは、竹串や爪楊枝、ボールペンのような先が丸いものを使う。

例：左１番と右１０番がＯＮ状態の図

基本：右１０番（右端）以外全てのスイッチを下にするか、下になっている事を確認する。

左１番スイッチ：グループ設定を使う
全員が本機を使うならＯＮ側で使う事を推奨。別の特小無線機が混在するならそれらの設定に合わせてＯＮなりオフに合わせる。
上にしたあとダウンキーを押しながら電源を入れ、「グループを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押して１～５０の内、任意の番号を選ぶ。36,とか 43、とか人が選ばなそうな、大きい番号ほど効果的。番号が音声ガイドされたら PTT キーを押して確定。

左２、３番スイッチ：通話モードの決定
【交互通話】２番はオフ、下のまま。L1~9, b1~11 の 20ch が使える。
チャンネル設定方法は下記。

【交互中継通話子機】２番をＯＮ側。L10~18, b12~29 の 27ch が使える。
アップキーを押しながら電源を入れ、「チャンネルを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押して番号を選ぶ。好みの番号が音声ガイドされたら PTT キーを押して確定。1 番は多用され混信の元。6 番とか 13 番とか人が使わなさそうな番号を選ぶほうが良い。

参考：中継器側の設定は「周波数方向」はＢ側（440MHz 受信／421MHz 送信）、チャンネルとグループ番号を本機に合わせる。

【同時通話】２番はオフ、３番をＯＮ側。L10~18, b12~29 の 27ch が使える。
チャンネル設定は前項目参照。連続同時通話するときは b12~29 のいずれかを選ぶ。L10-18 は初期設定では３分に一度、２秒間タイムアウトするが連続通話より倍程度まで通話距離が延びる。
同時通話モードでは、１番スイッチの設定に関わらず、自動的にグループトーク機能が働き解除できない。１番スイッチで個別設定していなければグループ番号１番になる。

左４，５番スイッチ：ショックセンサーと温度センサー
使うときは別紙スイッチ設定方法の説明書を参照してＯＮにする。基本の通話には関係しないので割愛。

左６番スイッチ：PTT ホールド（送信保持）を使わないときＯＮにする。
送信するときプレストーク（ＰＴＴ）を一回押し、受信に戻る時もう一回押すのが基本。話し中でも両手が使える。連続同時通話ではオフのまま変更しないことを推奨。交互通話や交互中継通話では「あれ、持ってきて。」「了解、そっちに行くよ。」位の短い連絡が多い時は使わない設定ＯＮが便利な時もある。

「以下、右側のスイッチ」

右１番スイッチ：VOX（音声検出送信）を使う
PTT キーを押さなくても自動的に送受信を切り替えることができる機能。マイクに音声が入れば送信、音声がなくなれば待ち受け（受信）状態になる。音声以外で送信してしまうような、周囲の騒音が大きな場所では使えない。送信開始までに若干の遅延が起き、声の初めが途切れる場合があるので、「はい、～」など、途切れても支障がないような言葉を挟んで話し始めること。クセがある機能なので無線通話に慣れていない場合は推奨しない。使うときはセットモードにＶＯＸ感度と遅延時間の変更項目が有るので、現場で騒音などの状態に合わせて最適値を探して設定しないと使い勝手が悪い。

右２番スイッチ：ビープ音と音声ガイダンスを使わない
本体から鳴るビープ音（操作音）と音声ガイダンス全てが鳴らなくなる。
よほどの目的や理由が無い限り、通常はオフのままにしておく（ガイダンスを使う）。

右３番スイッチ：コンパンダー（雑音低減）を使う
全て本機や、コンパンダー設定が有る機種と混用ならそれも合わせてＯＮ側を強く推奨。コンパンダーが無い機種との混用時は逆効果になるためオフのまま。

右４番スイッチ：同時通話を第三者がモニターできる「同時通話ループ」を使う
交互通話、中継通話の時はオフ側。３人以上で同時通話、かつ３人が任意に通話するときや、通話する人以外も２名の通話を聞くときはＯＮ側に。２名だけの同時通話でこの機能をＯＮにすると自分の送信中の声が聞こえる。後述のコールバック自声モニター機能との併用の害はない。

右５番スイッチ：スタートピー/エンドピー（送信開始/終了音）を使わない
初期状態では送信開始時に「ピッピ」と知らせ（相手には音は聞こえない）、送信終了時に「ピッ」と相手に通話が終わったことを知らせるビープ音が鳴る。送受待ち受け状態が目視できない本機では、初期値（下、使う）のほうが使い勝手が良い。どうしても音を消したければＯＮ側に。

右６番スイッチ：送信出力設定を変える
混信でＬ側が使えないなど、理由があるときだけＯＮにする。L12~L18 側は自動で 10mW になるので、通常は初期値オフで良い。ON にすると同時通話ビジネスチャンネル（ｂ１２～ｂ２９）の送信出力を 10mW で固定できるが連続通話はできなくなる。逆に全ＣＨで 1mW 連続送信するにはセットモードで別の設定が必要（明確な意図が無い限り不要な設定、説明は割愛）。

右 7 番スイッチ：コールバック（音声モニター）を使う
7 番を ON にするとコールバック（自声モニター）設定が有効になる。送信中にスピーカー・イヤホンから自分の声が聞こえ、送信状態がＬＥＤや液晶で目視できない本機では、「送信している事」が耳で分かるので便利。但し本機を単体で使う時はハウリングが起こるため、ＯＮにしないこと。コールバックを使うときはフレキシブルマイク、イヤホンマイク、イヤホンのいずれかを装着すること。

右 8 番と 9 番スイッチ: 別売のイヤホンやイヤホンマイクを使うときに変更
使うアクセサリーによって設定が変わる。別表に詳細有り。
＊付属フレキシブルマイク：両方　下。　（初期値）
＊イヤホンだけ使う：８番　上、９番　下。
＊タイピンマイク：８番　下、９番　上。
＊イヤホンマイク：両方　上。
マイク端子に何もつながないときはこの設定に関わらず本体のマイク、スピーカー、PTT が有効。

右 10 番: メイン電源スイッチ
ＯＮになっているはず。

以上で２台の設定は終わりです。

「多数で使うときのエアクローンについて」

２台間で通話実験をして好みの状態になっていたらクローンをします。親機は１台しか使いませんが、もう一台もクローンせず、そのまま使います。これら親機２台はテプラなどで目印しておき、常にそれら２台を手動設定して通話テストし、ＯＫならクローンするように使えば設定の管理に悩むことは有りません。

① 設定済のうちの１台を親機にする。以下、子機とはクローンしたい方の無線機。
② 親機も子機も減電池警告が出ていないことを確認して電源を切る。親機も子機もなるべく近くに集めて強い電波で受信できるようにする。電波環境が悪いと設定内容が正しくクローンされない恐れがある。台数が多い時は数台ずつ分けて行っても良い。
③ 親機の電源キーと PTT（送信）キーの両方を約 7 秒間押し続ける。途中で起動音とセットモード設定に関する内容を音声ガイドして水色ランプが点灯するが無視して押し続ける。
④ 「エアクローンモードです。このトランシーバーを～」と音声ガイドが始まり、ランプが青色と赤色の交互点滅を始めたら電源キーと PTT（送信）キーの両方を放す。キーを放しても音声ガイドは鳴ったまま。
⑤ 子機も同じ操作をしてランプを青、赤の交互点滅にする。複数の子機を同時にエアクローンする場合は、全ての子機をこの状態にする。
⑥ 子機の準備ができたら、親機の PTT（送信）キーを 2 秒間押し続ける。「設定内容を無線通信します」と音声ガイドして、ランプが赤色点滅し、エアクローンが始まる。
⑦ 電波を検知した子機は「ピピ」と鳴り、ランプが青色に点滅する。クローンが終わると「自動設定が完了しました」の後に設定された通話モード、チャンネル、グループ番号が音声ガイドされ、ランプが緑色に点滅する。
⑧ 自動的に子機の電源が切れる。電源キーを約 2 秒間押して電源を入れ直す。
正しくエアクローンが完了した子機は、起動音声が「クローン設定」になる。
⑨ 全ての子機の設定が完了したことを確認し、親機の電源を切る。

子機を全て通話実験して、正しく動いていれば終了です。

[注意]
子機のランプが緑色点滅から（電波を検知してから）自動で電源が切れるまでは、電源を切らないでください。設定内容が正しくクローンされない恐れがあります。誤って切れてしまった場合は、子機の電源を切って初期化（初期化）をして初めからやり直してください。

＝＝＝＝＝ 参考資料

[スイッチの優先順位]
スイッチ設定には、前後の機能が関連して「ＡにしたいときはＢをこうする」のような組み合わせの条件が付くものがあります。重複して設定できる機能や、間違えてスイッチを重複して操作した時の優先順位は以下となります。

- 2 番（中継子機）と 3 番（同時通話）は 2 番が優先です。
- 3 番（同時通話）と 4 番（ショックセンサー）は 3 番が優先です。併用できません。
- 2 番（中継子機）と 4 番（ショックセンサー）は併用できます。
- 5 番（温度センサー）は、2～3 番全ての通話モードで 4 番も一緒に併用できます。

オプション	10 極スイッチ		マイク	音声出力先	PTT（送信）キー
	8 番	9 番			
付属フレキシブルマイク（初期値）	OFF/下	OFF/下	付属マイク	本体	本体
イヤホン（オプション）	ON/上	OFF/下	本体	イヤホン	本体
タイピンマイク（オプション）	OFF/下	ON/上	タイピンマイク	本体	タイピンマイク側の PTT
イヤホンマイク（オプション）	ON/上	ON/上	イヤホンマイク	イヤホンマイク	イヤホンマイク側の PTT
マイク/イヤホン端子に何も接続していない。	不問		本体	本体	本体

電池について

＊１月程度使わないときは満充電して、直射日光が当たらない乾燥した常温の場所に保管してください。特に高温高湿度の場所は避けてください。電源が入っていなくても、わずかですが待機電流があるため電池は放電します。減電状態で長期保存すると過放電状態になり電池の劣化が進みます。

＊３か月以上使わないときは満充電にせず、減電池表示も出ない状態で１０番スイッチをオフにして同様に保管してください。（リチウムイオン電池の保存に推奨されているのは５０％程度の充電状態です。）

１０番スイッチがＯＮ状態のまま長期間放置すると、電池が劣化して充電できなくなる場合があります。

以上

アルインコ（株）電子事業部